

## 「すべてを見ておられ報いて下さる主」 コロサイ 3：22～4：1

- I 文脈、原則の中心＝「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ（続け）」3：16。エペソでは、「御霊に満たされ（続け）なさい」（5：18）とある。まず、これがなくては、家庭、職場、学校、社会でキリスト者として主の愛を示し、仕えることはできない。毎朝、家庭、世に遣わされる前に神と交わり（ディボーション）、心にキリストのことばを豊かに住ませ、御霊に満たされ（支配され）て一日を始めさせていただきたい。また、神が定められた安息日、主の日（黙1：10）を大切に、教会で神を礼拝し、キリストのことばを住ませ、分かち合い、御霊に満たされて一週間を始め、家庭、職場、学校、社会に主の証し人として遣わされたい。真に愛し、仕えるためには、まず神に満たされる事が大切である。
- II 「奴隷たちよ。すべてのことについて、地上の主人に従いなさい。人のごきげん通りのような、うわべだけの仕方ではなく、主を恐れかしこみつつ、真心から従いなさい」：22。今日の私たちへの適用。私たちが仕える立場の時の心、態度。
1. 「すべてのことにおいて、地上の主人に従いなさい」。私たちの真の主、ご主人である主のみこころに明確に反する悪には従えない。しかしそれ以外のことでは、神が摂理のうちに立てられた人に従う、仕える。主の香りを放ち主の栄光を現し、主を証しするため。
  2. 「人のごきげん通りのような（→おべっかを使う、人の気に入ろうとする、人のご機嫌取りのような）、うわべだけの仕方（→目の前だけの仕方、人の目にだけ気に入ろうとする奉仕）ではなく」。任務より、地上の主人の目にだけ気に入られようとする、人が見ている時だけやり、人が見ていないとしないという仕方ではなく。人の評価がどうあろうと、主は、私たちの心、仕え方のすべてを見ていて下さる。「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている」（黙2：2）。人が見ていなくてもコツコツとなすべきことを忠実に果たすことを主は喜ばれる。偉大な主は私たちのために人となり、うわべだけの仕方ではなく、心から仕えられた。
  3. 「主を恐れかしこみつつ」。これは、今この仕事、奉仕をしていることにおいて主のお役に立たせていただいている（主の栄光を現す、主の香りを放つ）のだという、主への畏怖。今置かれている場が、主から遣わされている場であり、主はそこに共におられるという自覚。「私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあつてした行為に応じて報いを受けることになるからです」（II コリ5：9，10）。
  4. 「真心から従いなさい」。真心＝単一、シングル、つまり二心、下心のない純粋な心。犠牲をいとわない心、物惜しみしない心。この原動力＝まず主が私たちが真心から愛し、犠牲をいとわず物惜しみせず、ご自身のいのちを私たちの救いのために与えて下さった驚くべき本物の愛。ハレルヤ！
  5. 「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心からしなさい」：23。私たちが主に従い仕えることは、主が喜ばれるように人に心から仕えることによって現される。主に従って人に心から仕えることは、主に仕えること。
  6. 「あなたがたは、主から報いとして、御国を相続させていただくことを知っています」：24。当時の奴隷たちは、地上で何かを相続することなど考えられなかったことだろう。その彼らに、そして主を信じる私たちに主は、地上のすべての富にはるかに勝る御国（神が統治される素晴らしい御

国、罪・悪・汚れ・病のない神の義と愛の御国、永遠のいのち、神を知る永遠の幸いな神との交わりと互いに心から愛し合う交わりのある御国、神の祝福の総体)を相続させてくださる。そして、この地上でも、御国(神が共におられる神の支配)の恵みを受けている。「神の国は、あなたがたのただ中にあるのです」(ルカ17:21)。「あなたがたは主キリストに仕えているのです」:24→「あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」(マタ25:40)。私たちが、人に仕えることは主に仕えることである。主は、私達の仕える姿を見ていて下さる。

7. 「不正を行う者は、自分が行った不正の報いを受けます。それには不公平な扱いはありません」:25。この地上では、人の目に隠された不正、不公平な扱いがある。しかし、神はすべてを見、見抜き、知り、神の時に正しい報い、さばきを行われる。あるものは、地上であばかれ、さばかれ、あるものは、最後の審判の時、神がすべてを正しく裁き報いられる。私たちは、すべてを見ておられる神を覚え、不正に気をつけ、忠実でありたい。「ある人たちの罪は、それがさばきを受ける前から、だれの目にも明らかですが、ある人たちの罪は、あとで明らかになります」(1テモ5:24)。

III 「主人たちよ。あなたがたは、自分たちの主も天におられることを知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい」4:1。人々の上に立って仕事を進める立場にある人は、自分の神、救い主、主、ご主人が天におられ、すべてを見ておられることを忘れてはならない。人々に対して、不正、不公平なことをするなら、主がすべてを見ておられ、正しくさばかれることを覚えなければならぬ。人の目をごまかせても主の目をごまかすことはできない。むしろ主を恐れ敬い、自分のもとで働く人々に対して主が示された義と愛、主からいただく正義と公平を示す。その姿が、主の栄光を現し、主を証しすることになる。伝道は言葉だけではなく、振舞を通してもなされる。「人々があなたがたの良い行い(良く見せる行いではなく、真心からの行い)を見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい」マタ5:16。人々は、福音の言葉にすぐ耳を傾けなくても、キリスト者の振舞を見ている。再臨の主は忠実な者に言われる「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はたくさんの物を任せよう。主人の喜びを共に喜んでくれ」25:21。主は、私たちのすべてを見ておられ、知っておられ、報いてくださる。

「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている」黙示録2:2

「神は正しい方であって、あなたがたの行いを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えている神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです」

ヘブル6:10

「わたしの弟子だというので、この小さい者たちのひとりに、水一杯でも飲ませるなら、まことに、あなたがたに告げます。その人は決して報いに漏れることはありません」

マタイ10:42

私達は、この地上で何をしている時も、主のまなざしがある事を覚えて歩みたい。私たちの愛、仕事、奉仕、人の目に目だたない仕える事の一つ一つを主は、見ていて下さり、主の時に(地上でか、再臨の時か)正しく報いて下さる事を覚えて歩ませていただきたい。